令和７年２月１７日

**資料１**

大和市長　古田谷　力　殿

大和市文化芸術振興審議会

会長　川 染　 雅 嗣

大和市文化芸術振興基本計画（第４期）案について（答申）

　令和７年１月２０日をもって諮問を受けました大和市文化芸術振興基本計画（第４期）案について、慎重に審議した結果、別紙のとおり答申します。計画の策定にあたっては、答申の趣旨をできる限り反映されるようお願いいたします。

**１　施策目標と方策**

　○「方策１－２　ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備」について

　　ユニバーサルデザインの視点は、芸術文化ホールに限らず、他の施設の環境整備においても持つ必要があることから、適切な表現に改める必要がある。

○「方策１－３　市民の自発的かつ主体的な文化芸術活動への支援」について

市の文化力を高めるためには、活動者同士との横のつながりを創出し、互いに協力しあうことが重要であることから、これに対応した方策を具体的に記載する必要がある。

○「方策２－３　地域の歴史・文化を知り、学べる機会の充実」について

デジタル技術を活用して地域の歴史や文化を知ることは、日頃からデジタルに親しんでいる子どもたちにとっては有効な取組になると思われるため、こうした視点も含んだ表現とすることが望ましい。

○「方策３－２　子どもの文化芸術活動をサポートする組織の支援」について

サポート組織の活動を実効性のあるものとするためには、教育委員会の協力が不可欠となることから、これを表した記述をすることが望ましい。

　○「施策目標５　大和の文化芸術の魅力を内外にアピールする」について

　○「方策５－３　文化芸術の魅力の一体的な発信」について

　　大和の文化芸術の魅力を一層アピールしていくためには、観光や景観分野との連携だけでなく、市民の興味、関心の高いスポーツや健康などの分野との連携も視野に入れることが重要であり、これをイメージした表記とする必要がある。

　　また、文化創造拠点シリウスは、全国に誇れる文化施設であり、引き続き大切にしていく思いを込め、発信の中心拠点であることを改めて計画に示していくことが望ましい。

**２　計画推進に向けて**

○「モニタリング（計画の進行管理）」について

　　文化芸術の振興を効果的に推進していくためには、定量的な評価だけでなく、定性的な評価も行う必要があることから、これを明記する必要がある。